

龍膽

制シ過コトヲ云リ

〔新撰字鏡〕草 龍膽 又云山比古奈

〔本草和名〕草 龍膽 陶景注曰味甚苦故以膽為名 一名凌淤 和名衣也 美久佐 一名爾加奈

〔倭名類聚抄〕二十 龍膽 陶隱居本草注云龍膽 和名衣夜美久 一云邇加奈 味甚苦故以膽為名也

〔箋注倭名類聚抄〕十 播磨人呼於古利於登之煎服之以截瘡 蓋衣夜美久佐之名之遺也 陶弘

景又云龍膽狀似牛膝 開寶本草引別本注云葉似龍葵 味苦如膽 因以為名 圖經云宿根黃白色 下

抽根十餘本 大類牛膝 直上生苗 高尺餘 四月生葉 似柳葉而細 莖如小竹枝 七月開花 如牽牛花 作

鈴鐸形 青碧色 冬後結子 苗便枯

〔下學集〕草 下木 龍膽

〔書言字考節用集〕生植 龍膽 一名 龍膽 陵游草

〔倭訓栞〕中編二十八 りんどう 徒然草にみゆ龍膽なり 音をもて訓とするなり 元真集などにより

んだうとも見えたり 女房の装束にもいへり 俗にさゝりんだうといふは 小きを指ていへり 山

龍膽なり 蔓生の石龍膽なり といへり 藤りんだうあり 裏紅あり 武者りんだうあり

〔藻鹽草〕草 龍膽 物の名にゆめり 和名に多都の伊久佐

るやみ草 おもひくさ 注するごとく 女耶花をいへり 私云歌様によるべき也 下草の花を

みつればむらさきに 時平歌合によめり 是もあふよしの事也と云々 秋の野の花をまじり花さくといへり

も、りんどうの 事也と云々 くだに 苦膽りんだうの一名

〔古今要覽稿〕草 木 くだに 略 今按りうたんにくだにの和名あるごとくいふはひが言なり すでに和名類聚抄にも龍膽 和名

ニカナ、エ、とあげて、くだにの和名は見えず、こはりうたんの字音よりして、後におしあてたる